

5

藤沢市の借金は どうなっているの？

1 借金はどれくらい？

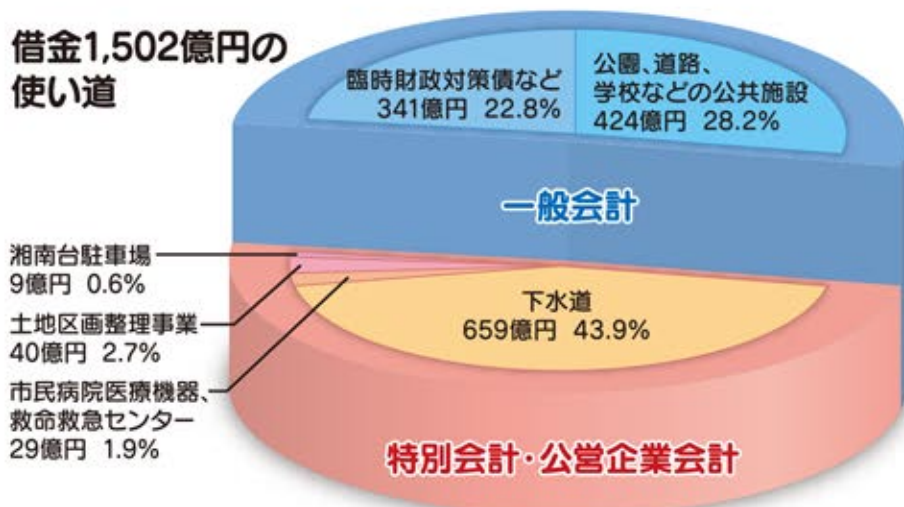
藤沢市の借金は、平成23年度に約83億円を新たに借り入れて、約138億円返済しました。

借金残高は、市全体で約1,502億円です。



- 借金は、主に公園、道路、学校、下水道などの公共施設の整備に使われています。

借金1,502億円の 使い道



市民1人あたりにすると
平成23年度中に
新たな借り入れ……約2万円
元金返済……約3万3千円
残高……約36万4千円



●借金残高の推移



大規模な建設事業などが減少していることや、過去に借り入れた借金の返済が進んでいるため、残高は年々減少しています。

★借金は他の市と比べて多いの？ 少ないの？

市民1人あたりを県内16市で比べると、少ない方から4番目です。(普通会計という区分で比較)
(横浜市、川崎市、相模原市を除く県内16市)

藤沢市
約20万円

最高 A市
約58万円

最低 B市
約17万円

16市平均
約25万円

県内少ない方から

4番目

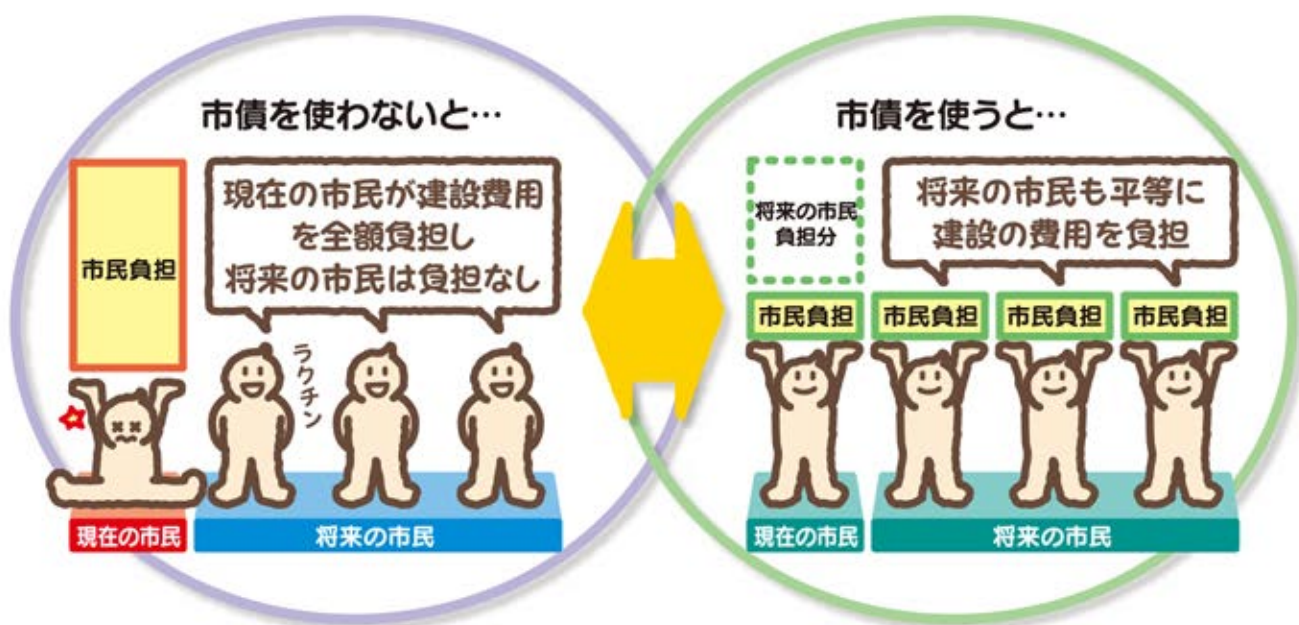


2 どうして借金をするの？

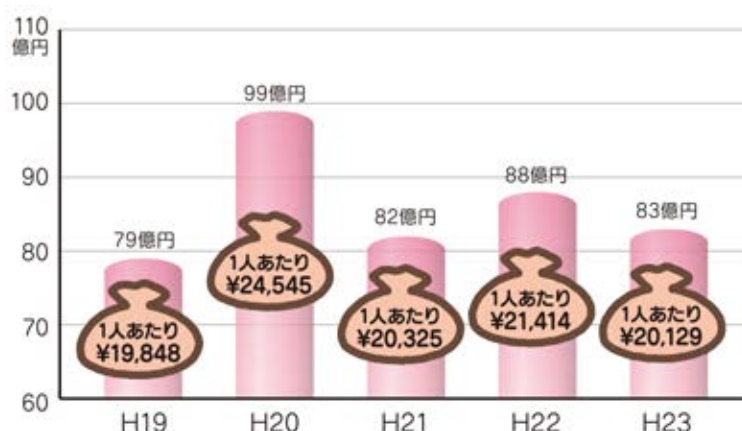
- 「現在の市民と将来の市民の負担を公平にする役割」と「毎年の財源を平均する役割」があります。

公共施設の整備には一時期に多額のお金が必要になります。これをその年の収入だけで賄ってしまうと他の仕事ができなくなってしまいます。

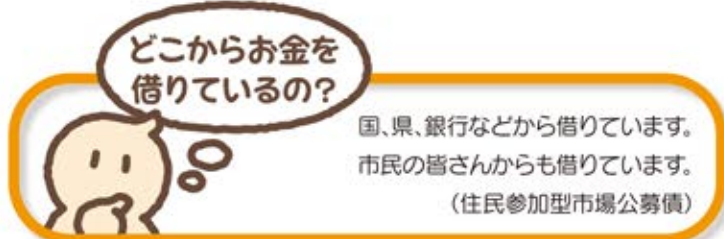
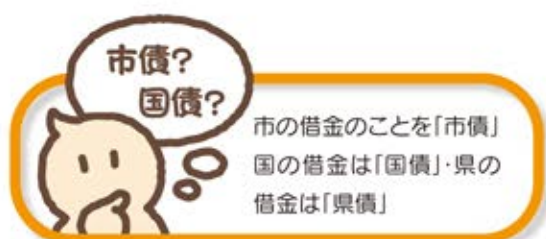
また、公共施設は現在の市民だけではなく、将来の市民も利用するものであるため、負担の公平性を図る観点から、市債を活用して平等に費用の負担をお願いしています。



●借入額の推移



平成20年度に辻堂駅周辺地域都市再生事業や第一中学校改築事業などの実施により借入額が増加しましたが、その後は建設事業の減少により大きな増加はありません。



3 借金の返済額は妥当なの？

●健全化判断比率から見てみよう

借金の返済額が身の丈にあったものかどうかを判断する基準に「実質公債費比率」というものがあります。

収入に対して返済額がどの程度の割合になるのか、借金返済の負担が多すぎないかをチェックするものです。

借金漬けになる可能性が高いとされる目安25%に対して、藤沢市は4.6%（平成23年度決算）で良好な状態にあります。

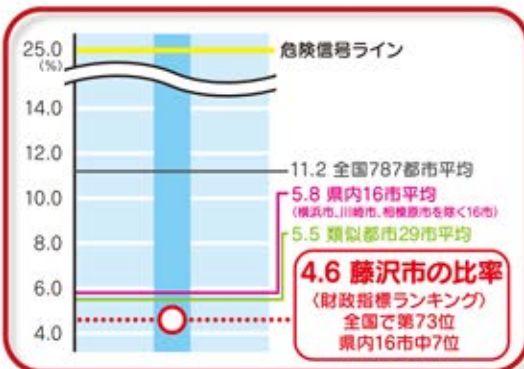


●家計に例えると（実質公債費比率）

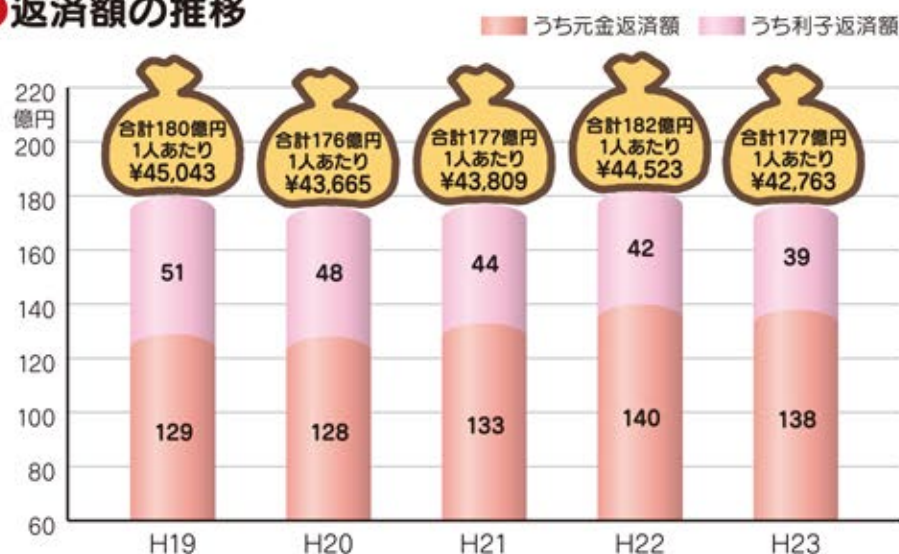
家や車のローン、クレジットカードで買い物をした支払いなど、その年の返済額が年収の25%以上となった場合、借金漬けになる可能性が高いという危険信号を示しています。



●実質公債費比率（他市との比較）



●返済額の推移



ほぼ横ばいですネ



返済総額と元金返済額はほぼ横ばいですが、利子返済額は借入れ利率の低下により減少しています。

★財政の健全度を診断する指標「健全化判断比率」って？

財政破綻を未然に防ぐことを目的に「財政健全化法」という法律ができ、財政の健全度を診断する指標「健全化判断比率」を議会や市民のみなさんに毎年公表することが義務づけられました。

健全化判断比率は、4つの指標①実質赤字比率②連結実質赤字比率③実質公債費比率④将来負担比率があり、赤字や負債（借金返済）の状況など4つの視点から示すものです。

①・②は年間の赤字の割合（①は一般会計等、②は全ての会計を対象）、③は借金の返済額の割合、④は将来の負担が見込まれる負債の割合をチェックするものです。

4 将来の市民に負担はかからないの？

●健全化判断比率から見てみよう

借金や数年間にわたる契約により約束された支払い、職員の退職金など、将来支払わなければならない負債が、収入に対してどの程度なのかを示す指標として、「将来負担比率」というものがあります。負債にかかる負担が大きくないかをチェックするものです。

将来財政を圧迫する可能性が高いとされる目安350%に対して、藤沢市は33.1%（平成23年度決算）で良好な状態にあります。

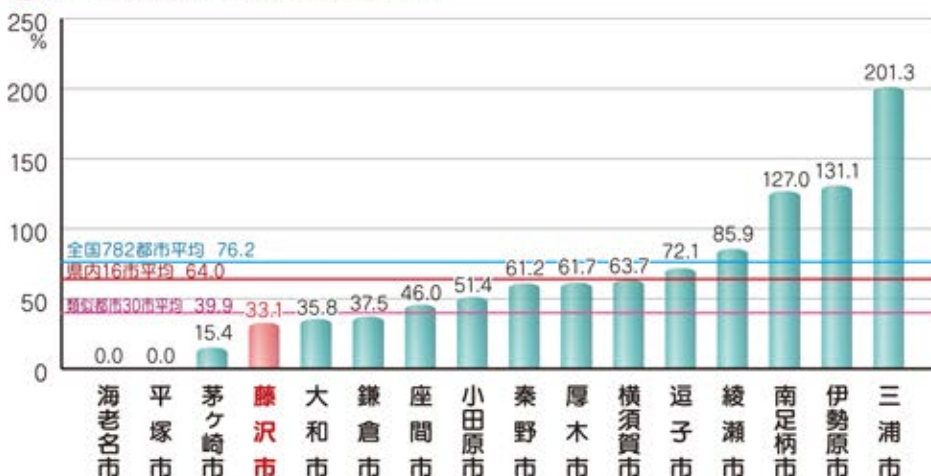


家計に例えると（将来負担比率）

家や車のローンの残高、クレジットカードの支払い残高など、これから返済していかなければならない返済総額が、年収の3.5倍以上になった場合には、今後ローン返済などに追われ家計が成り立たなくなり、経済的苦境におちいる状態にあることを示しています。



●県内16市将来負担比率



県内4番目、
いいんじゃない？



藤沢市の比率は、県内16市中、将来負担が少ないほうから数えて4番目です。類似都市平均、全国平均からみても良好な状態にあるといえます。

(横浜市、川崎市、相模原市を除く県内16市)



健全化判断比率からみた平成23年度の藤沢市の財政状況はいずれの指標も危険信号を示す基準値を下回っており、「健全段階」であります。

●健全化判断比率

比率	藤沢市		早期健全化基準 (イエローカード)	財政再生基準 (レッドカード)
	H23	H22		
実質赤字比率	▲9.58	▲6.34	11.25	20
連結実質赤字比率	▲23.71	▲19.28	16.25	30
実質公債費比率	4.6	6.3	25	35
将来負担比率	33.1	35.6	350	

※実質赤字比率と連結実質赤字比率については、黒字である場合は負の値(▲)で表示しております。
※財政再生基準の連結実質赤字比率について、H23年度決算では30%、H22年度決算では35%です。

★早期健全化基準・財政再生基準とは？

市の財政状況が悪化し、危うくなったときにイエローカード(早期健全化基準)で警告をします。

更に悪化し自主的に財政の立て直しができなくなったときは、レッドカード(財政再生基準)で、国・県の関与のもと、確実な財政の立て直しに着手することになります。

